

令和3年度 第3回 昭島市社会教育委員会議・要点録

開催日時／会 場 令和3年6月24日（木）午後7時00分～8時00分 205会議室+Web会議

出席者 谷部議長、松本副議長、稻垣委員、齋藤委員、指田委員、二ノ宮リム委員、信國委員、吉川委員、吉村委員

欠席者 小原委員

事務局 塩野社会教育課長、川崎社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開 会

<配付資料>

資料1 令和3年度社会教育関係団体登録数について

資料2 第31期社会教育委員会議の活動について

資料3 第6回市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について

- ・昭島市月間行事予定表（7月）
- ・あきしまの教育 第104号
- ・あきしま公民館だより No.204
- ・あきしまの青少年 No.263

2 報 告

(1) 令和3年度社会教育関係団体登録数について（資料1）

※事務局より、資料1の説明

(2) その他

※事務局より、今年度の青少年フェスティバル中止について

3 協 議

(1) 第31期社会教育委員会議の活動について（資料2）

※資料2について事務局より説明

①視察研修について

議 長 まず視察研修についてご意見をお願いしたい。

委 員 視察が可能であれば実現したい。ただ、一番やりたい意見交換などが現状だとできない可能性もあるので、意見交換を事前に済ませ、感染症の状況の良いときに現場を見せていただくというのもよいと思う。

委 員 視察研修はできればよいが、もうひとつの可能性として、今回のテーマに合わせ「対話」についてじっくり考えてみてはどうか。対話とは、表面的な会話よりも本音をさらけ出し、その本音が対立する場合もあるが、ぶつけ合って、そこから新しいものを対等な関係で生み出すとしていくと、真の対話が生まれるものと理解している。その中で気

になったワークショップをアンケートの回答としてご紹介している。

委員 広島県教育委員会が毎月出しているメールマガジンに、令和2年の6月からオンラインでオンライン活用についての研修をしているということだった。参加者が1,000人を超えたそうだ。昭島市でもなかなかオンライン会議が進まない状況であれば、会議に参加する人がこうしたことを学ぶ場も必要かと思う。交流会をハイブリット形式でやるということも書かれていた。ハイブリット形式も使えるのではないかと思う。

②社会教育関係委員研修について

事務局 社会教育関係委員研修会について、アンケートでも例年通りの実施を準備していくというご意見が多かったが、どうか。

委員 学習サロンに来た小学生が、ホワイトボードに絵を描く様子を写真に撮り、それを動画にするということを実際に簡単そうにやっているのを見て、大人もこういうことを経験するとこれからの活動の役に立つのではないかと思った。

議長 以前受けたことのあるワークショップがとてもよかったです。自分が人生で大切にしているものが何かを見つけるものだった。価値観の違いや人生における優先度の違いを認め合うワークショップをしてみたい。

委員 SDGsへの関心が高いので、カードゲームやLEGOを使ったまちづくりワークショップなどで体験するのもよいと思う。2030年の社会に「あってほしいもの」「なくなってしまうもの」を挙げてもらって「My SDGs」を考えるワークショップや、開発教育協会の「豊かさの定義を考える」ワークショップも面白い。また、チームビルディング（仲良くなる、お互いの関係性を深める）のワークショップも面白い。各社会教育関係委員にも役に立つのではないかと思う。オンラインのチームビルディングというのも考えてみると面白いと思う。

議長 9月頃には日程や内容を決めたいので、アンケートで開催日などを次回にまとめられるように示したい。

(2) 第6回市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について (資料3)

議長 第6回のあきしま会議について、ご意見をお願いしたい。

委員 中学生・高校生を対象とするとなると、別の機会がいいと思うが、あきしま会議の背景に社会教育行政をよりよくする、昭島の社会教育を活性化するために市民ニーズをとらえたい、必要な仕組みなどを考えたいということがあった。あきしま会議に参加された皆さんの視点からできることを具体的なプロジェクトがだんだんできればよいのではないかと思う。これは、社会教育活動に携わっている方々と一緒に考えていきたいと考える。

事務局 では、今回は中学生・高校生たちの話を聞くということでおよいか。

委員 若者の声を一方的に聞くのではなく、何か次につながる、若者が参加する価値のあるような目的をもってそのうえで若者が声をあげられる場をつくれたらと思う。

委員 困っていること、不思議に思っていることを単に聞くだけでなく、彼らのやりたいことなど出てきたことを実現できる道筋をつくる場になつたらよいと思う。次のステップ

につながる見通しを持てるような場。

委員 市が主催している子供の主張意見文コンクールの文章を見ると、「昭島の未来」について、バリアフリーの推進や、農業をもっと活性化させるべきという意見など実によいものが多い。そこで、柱となるテーマを設定し、大人も子供もそれについて準備をし、意見を出し合って未来につなげていくうえでできることは何か、中学生ができるることは何か、大人がやるべきことは何か、そんな建設的な意見交換の場になればと思う。Win-Win の場になって機能してくれたらよいし、子供たちに伝えていけたらと思う。

議長 どんなふうにすれば、中学生たちに参加してもらえるものか。

委員 作文を募集して書いた人に参加してもらうことも考えられるし、生徒会への声掛けもある。生徒会活動は、学校全体の動きにつながるので、大きなムーブメントにつながるという期待が持てる。

議長 社会教育委員以外の参加はどうか。先日参加した東京都市町村社会教育委員連絡協議会研修会講師の先生のお話で、社会教育活動の展開はサークル活動など横方向のものを考えがちだが、これからは若い世代との縦のつながりを重視したほうがよいというお話をでもあったので、あきしま会議でもそういうことができればよいと感じていたところだ。

委員 社会福祉協議会の中で「共助の基盤づくり協議体委員会」がある。これは困りごとを解決しようという社会福祉目線から 2 年ほど前から始まったもので、昨年度の会議の中で、小学生や中学生の力を借りて問題を解決することはできないかという話があった。高齢者が家でごみをまとめることができても、高層の集合住宅だとごみ集積所まで行くことができない、という課題に対し、小学生なら学校へ行く前に代わりに持つていけるのではないかという話になった。そのときに「シルバー人材センター」のように「キッズ人材センター」があつてもよいのでは? という意見も出た。ただ、今の子供たちが知らない人の関わりを持つことに対し、保護者からも学校からも推奨されていないのでその話は止まっているが、もしかしたらそれに近いことができるのかもしれない。今回のあきしま会議に社会福祉協議会の方を呼んでみてもよいのではと思った。

委員 「いただきます」という言葉に対し、「給食費を払っているのになぜ言わなければいけないのか」という感覚の持ち主もいると聞く。コロナ禍で、他人の家のごみを登校する際に集積所へ出すという行為はとても立派なことだが、そういうことに対して文句が出てしまう場合があると思うと、危惧がある。その会議の趣旨を聞くという意味ではないとは思うが。

委員 生徒会のほかボランティア部もよいのでは。今の時代、ボランティアがどういうところで受け入れられ、どういうところで求められているか知られていないため、やったときにむしろ迷惑がられないかを心配している人が多いように感じている。どういうことをしてほしいと思っている上の世代がいるのかを伝えるということだけでも意味があると思う。どういうニーズがあってどういうことができるかということだけでも意味ができるだけでも次につながると思う。

委員 今の子供たちが全然知らない人たちとコミュニケーションをとるところは禁じられているような面もある。私が知っているのは「未来守」という高校生のボランティア。フードバンク昭島でも大学生くらいの方がボランティアとして関わっていた。同世代が

やっているボランティアの話を聞かせてもらう。自分たちはこういうことをしている、こういうことができるという話を聞くのもよい。すべて自分たちで立ち上げるといふこともよいが、いろいろなすでにあるグループの中に入つてみると、ということを伝えてみることもできると思う。アメリカでは子供たちが夏休みや1か月に1回程度などができる範囲のペースで、こうしたボランティアグループに参加するケースが多い。ボランティアは災害が起きた時だけのものではなく、もっと日常でボランティアをする場所はあるので、それをやっている、やってみたいと思っている若い人たちを引き込むのは面白いと思う。

委員 ボランティアということだが、ボーイスカウトでも清掃活動などやっているが、最初のうちはやや強制的なところがある。本来の目的は自分の意志をもって人を助けることを鍛えることなので、高校生くらいになるとボーイスカウトの活動の一つとしてボランティアの活動も自分たちで決められるようになる。阪神淡路大震災の時のことだが、ボランティアとしてボーイスカウトの人たちに来てほしいという要請もあった。ボーイスカウトの人たちは、自分たちのことは自分たちででき、かつ、人のお世話もできるからという理由だった。一番は人に何ができるか自分で考えて行動できることが我々の活動の目的だ。子供たちのニーズを引っ張れる大人がいることも大事だと思う。子供たちがそれによって気づき、実現できるとよいと思う。

事務局 大きく分けてふたつの意見があったかと思う。

①実際に活動をやっている人たちの活動を聞く ②上の世代の困りごとを聞く

委員 ひとつは活動している子たちにリードしてもらう。地域の活動（PTA役員等）に積極的な方がいて、その方はかつてジュニアリーダー（現在の昭島市リーダーズクラブ（ALC））をやっていたと聞いた。あきしま会議や地区委員会の小学生リーダー講習会での活動がきっかけで、地域への愛着や地域の大人たちへの地域のネットワークの中で「未来守」という団体ができたし、ボーイスカウトの中でも地域への愛着や信頼関係が育まれてきた子たちがいると思うので、そういう経験を積んできた子たちに自分たちのやっていることを共有してもらい、生徒会の子たちを中心に、特に自主的に活動をしているわけではないけれど、できることを探している子たちに来てもらって、今あるものに参加してもらうのもよいし、新たに何か立ち上げるのでもよいので、できることをみんなで話し合ってはどうか。すでに活動している中でも、活動へのアイディアや助言を必要としていると思うので、新たな情報やニーズを得る場にするといいのでは。「未来守」は社会福祉協議会のボランティア団体に登録し、団体を設立するにあたっての助言を多々いただいて経験することができた。そういう仕組みも知らなければたどり着けないので、様々な仕組みをする機会にもなる。

議長 次回の会議までに様々な準備をして皆さんに諮りたい。次回の日程を確認し、本日の会議は閉会とする。

次回

7月15日（木）午後7時より 202会議室+Web会議

8月26日（木）午後7時より 202会議室+Web会議